

青少年問題協議会要点記録

日 時 平成26年6月23日(月)
午後3時から
場 所 市役所5階502会議室

議 題

- 1 平成26年度和光市青少年健全育成重点目標について
- 2 平成25年度和光市青少年関係機関・団体の事業報告及び平成26年度事業計画(案)について
関係各課より説明 (産業支援課、こども福祉課、スポーツ青少年課)
- 3 青少年健全育成標語募集要領(案)について
斎藤副会長説明 募集要領説明
- 4 青少年健全育成作文募集要領(案)について
作文審査委員長 大久保委員説明
- 5 講演会 テーマ「スマートフォン・携帯電話の安心安全な利用」について
関東総合通信局 電気通信事業課 上席企画監理官 安達 享二 氏
 - ・内閣府の調査では、携帯の所持率 高校生 97%(82.2%スマホ)
中学生 51.9%(47.5%スマホ)
 - ・スマートフォンは小さなパソコンである。
 - ・個人情報、位置情報など色々な情報が詰まっている。
 - ・アプリの確認をして、使ってほしい。道案内のアプリは位置情報がわかってしまう。
 - ・不適切なアプリをダウンロードできないように制限するアプリもあるので、保護者がそれを利用する。
 - ・指紋認証などセキュリティロックをかけるとよい。
 - ・書き込みは推薦入試、就職活動、結婚などに影響する。
 - ・なりすましの被害に女子中学生、高校生は気をつける。

6 会議テーマ「青少年のインターネット・スマホの現状」について

【石川委員】

中学生のスマホの所持率 47.5%で携帯が 51.9%とありましたが、本校でははるかに多く、昨年の 11 月に保護者にアンケートをとったところ、77%携帯を持っている。所持率と関わっているかは別として、スマホ、携帯の依存は増えていると感じます。

【猪原委員】

自分の子どもが加害者になるというネットへの書き込みが危険ではないか。投稿がきっかけで、逮捕されて、書類送検、家裁送検の事例が少なくない。そういった書き込みを容易に検索できる状態にある。知識がなくて興味本位にやってしまったことがネットでは消えずに一生ついてまわるといった危険な状態になる。ネット教育が大切だと思います。青少年に向けて、現実でもネット社会でも、モラルが大切だと思います。特にネットは世界に繋がっているということを理解してもらおうということを通じて徹底的にやる必要がある。

【井上委員】

埼玉県では生徒自身によるスマホの安全利用のための私たちのルールづくりをすることになりました。研究校としては6校選ばれています。埼玉県が関わる形でやっていくのは、47 都道府県の中では先進的な取り組みになるそうです。外部講師の講演会を踏まえた上で作っていくという、そのルールを作ってどう全校生徒に周知するか、どうやって守らせるか、学校単位でそれぞれ工夫していくということで聞いています。

小学生、中学生は同じ取り組みは無理なので、市内の教育関係のみなさんが積極的に関わる形でルールづくりを積極的に進めていったらと考えています。

【教育長】

3月 18 日付けで「家庭でのソーシャルメディア利用のルールについて」を配布しておりますが、いわゆる学校ソーシャルメディアガイドライン、これを意図して作っているわけですが、高校生ぐらいになると判断力もあり自分を律することも出来るわけですが、小中学校の段階では大人がそういう環境を作っていく必要があります。愛知県刈谷市の実践がありますので、和光市でもルールができればと考えています。子どもたちを守ろうという意識が必要です。

【市長】

刈谷市の取り組みは、生徒たちと保護者が申し合わせをして、地域のルールとして浸透しているのですが、報道だと規制をしたように言われています。あくまでも自主的ということで、その方がいいのでは。

【佐久間委員】

5月30日付けの朝日新聞を見たのですが、蓮田松韻高校で集会を開いて人権宣言を660人で採択した。深刻なネットいじめを意識して、書き込みとか、人を傷つけないとか生徒が考えるスマホのルールもつくる予定と書かれていた。

小学校でも中学校でも、先生が中心となって、ルールづくりが出来たらと考えています。

【教育長】

方向性でいうなら、それは可能だと思います。

小中学生は、やはり大人が責任をもって使い方の制限をしていく必要があります。

刈谷市のルールは3つしか設けていないようです。

【市長】

ある程度、大人の主導権があった方がいいということですね。

【田中委員】

家庭でのルールを決めている。

親が子どもに言う強いアピールがあれば良いと思っている。

【市長】

刈谷市の事例を参考に市として、P連とか加盟団体と確認させていただいて、市内の青少年団体と学校、保護者と確立して共有していく。

【出席者】

市長、副市長、佐久間、猪原、上篠、大久保、石井、木田、石田、石川、大谷、田中(将)、富澤(美)、稲垣、斎藤、菅原、村山、山田、富澤(甚)、田中(朋)、畠山、井上、山崎
川辺産業支援課長、新坂こども福祉課長

事務局 スポーツ青少年課(深野課長、鈴木課長補佐、中葛、大槻)